

第二回 日本の看取りを考える全国大会

平成27年8月23日（日）14時～17時

～自宅幸せ死を目指して～

【会場】中部国際空港セントレアホール
【参加費】1,000円 【定員】400名

プログラム

①

基調講演 青木新門先生「いのちのバトンタッチ」



映画「おくりびと」の原案となった「納棺夫日記」の著者

1937年、富山県(下新川郡入善町荒又)生まれ
早稲田大学中退後、富山市で飲食店「すからべ」を経営する傍ら、文学を志す。
吉村昭氏の推挙で「文学者」に短編小説「柿の炎」が載るが、店が倒産。
1973年、冠婚葬祭会社(現オークス)に入社。専務取締役を経て、現在は顧問。
1993年、葬式の現場の体験を著した『納棺夫日記』がベストセラーとなり注目される。
2008年、『納棺夫日記』を原案とした映画『おくりびと』がアカデミー賞を受賞。
著書に『納棺夫日記』、小説『柿の炎』、詩集『雪道』、童話『つらの坊や』、『それから
の納棺夫日記』など

プログラム

②

シンポジウム「あなたは誰に看取られたいですか」

座長：奥 健一郎 先生(鹿児島大学 工学部 講師)

泉山典子 先生(悠翔会在宅クリニック川口 医師) 田之上誠文 先生(小学校校長)
長谷川史道 先生(平田寺 住職) 船井勝仁 先生((株)船井本社 代表取締役社長)
看取り士 本間利和子((社)ふるびら和み 代表) 看取り士 柴田久美子((社)日本看取り士会 会長)

提言

「自宅死を勧めていくために」(日本看取り士会)

2025年、団塊世代の皆様が高齢を迎えた時、47万人の死に場所がないと厚労省の発表があった。「看取り士」が中心となって、看取りのボランティア「エンゼルチーム」をつくり、自宅死を勧めていくことによって孤独死の解消を図る。看取り士とは、余命告知を受けてから納棺までのお世話、プロデュースしている。愛と希望を手をやさしく やさしく やさしく…

会場アクセス

〒479-0881 愛知県常滑市セントレア1丁目 中部国際空港セントレア
●アクセス 名古屋駅から名鉄線 中部国際空港駅下車(特急28分)
●セントレアホールへの行き方
国内線チェックインカウンター案内所の先に第2セントレアビルへの連絡通路があります。

前後日は

「看取り学講座」開催 8月22日(土) 初級コース 8月24日(月) 中級コース

主催：「第二回 日本の看取りを考える全国大会」実行委員会 共催：一般社団法人 日本看取り士会
年賀寄附金による社会貢献事業助成 後援：日本医師会 日本介護支援協会 日本介護福祉士会 ベネッセOBOG会
友情出演：日本舞踊家 山野敬祐氏(社会福祉法人敬寿会 特別養護老人ホームしかまの里 施設長)

お申込・お問い合わせ：一般社団法人 日本看取り士会(岡山県岡山市北区田益582)
TEL/FAX 086-728-5772 mail: staff@mitorishi.jp http://nagominosato.org
参加申し込みは、今すぐ！ご入金をもって正式申込とさせていただきます。
お振込み先：■ゆうちょ銀行 店名 五四八(ゴヨンハチ)店番548 普通 3551018

※本チラシ掲載内容は変更されることがあります。予めご了承ください。

申込書	代表者名		ご連絡先	
	ご住所		参加人数	人 × @1,000円 = 円